

高等学校における ネットいじめの実態に関する実証的研究

浅田 瞳
原 清 治

【抄録】

いじめの定義が当時の文部省（現：文部科学省）によって明らかにされてから30年以上経過したが、いまだその認知数は高い水準を示している。2013（平成25）年に「いじめ防止対策推進法」が公布されたが、全国各地からいじめが原因と考えられる事件が報道されている。とりわけ、ネットを介したいじめトラブルは近年耳にする機会が増えている。

本論文では、まずいじめ問題がどのように論じられてきたのか、その変遷を概観し、いじめの今日の特質は何かについて考察する。また、現実世界でのいじめ（リアルいじめ）と相関関係の強いネットいじめについても言及しながら、2015年から継続して調査を行っている高等学校3校を対象として、ネットいじめがどのように変化しているのかを明らかにし、いじめの抑止に向けて、地域社会や学校、親が向き合わなければならない問題は何かについても論じてみたい。

キーワード：ネットいじめ、経年変化、進学校と多様校の違い

1. 具体的な事象を通してみるいじめの変遷と定義の変更

大きく社会問題として取り上げられるようないじめ事象が起こるたびに、文部省（現在の文部科学省）は、それに対応するため、定義そのものの変更も含めた施策を講じてきた。

まず、いじめの発生件数について概観してみたい。図1-1を参照されたい。これは文部科学省による「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」のいじめの認知（調査開始時は発生）件数を校種ごとに示したものである。

この図とスミス（Peter. K. Smith）が示す世界のいじめ研究⁽¹⁾を照らし合わせると、いじめ問題は大きく4つの時期に区分できる。

まず、第1期はいじめ調査が本格実施される以前の1970（昭和45）年から1988（昭和63）年頃までである。この時期は「いじめ研究の起源の時期」⁽²⁾であり、「足が短い」「頭が悪い」「走るのが遅い」といったその人のもつ負の側面をあげつらって、いじめの標的にするという傾向を持つ。さらに、教師などから見ても、いじめの被害者となる子が誰で、その原因が何なのかが「見えて」いたこと、いじめは加害者と被害者という当事者間での問題であるという認識が強かった

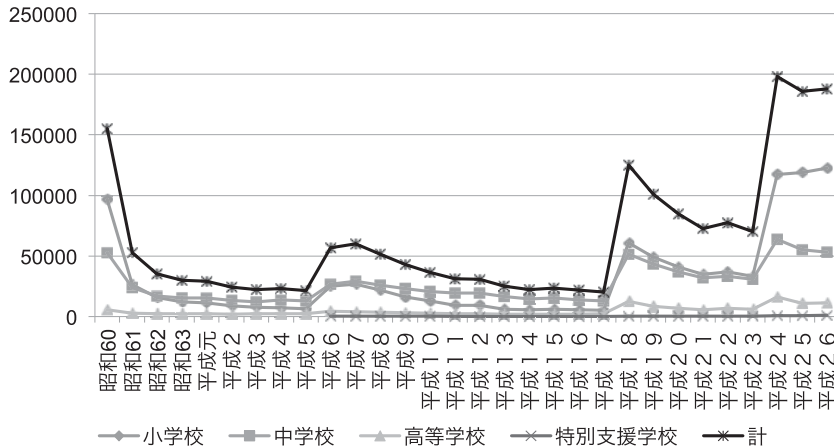


図1-1 いじめの認知（発生）件数

注1) 平成6年度、平成18年度からは調査方法を改めているため、それ以前との単純な比較はできない。

注2) 平成6年度以降の計には特別支援学校（特殊教育学校）の発生件数、平成18年度以降は国私立学校、中等教育学校を含む。

注3) 平成17年度までは発生件数、平成18年度以降は認知件数。

注4) 平成25年度からは高等学校に通信制課程を含める。

出典：文部科学省「平成26年度『児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査』における『いじめ』に関する調査結果について」(http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/27/10/_icsFiles/afieldfile/2015/11/06/1363297_01_1.pdf 2015年12月19日確認)

ことなどが特徴として挙げられる。この期のいじめ事例としては、1985（昭和60）年9月に福島県いわき市で発生したいじめ自殺事件と、1986年2月の東京都中野区のいじめ自殺事件がある。前者は、遺族が起こした「損害賠償を求める民事裁判において、全国ではじめて学校の責任が認められた」⁽³⁾ものであり、その後、遺族が加害者や学校、地方自治体を相手に民事訴訟を起こす契機となった事例であり、後者は、「葬式ごっこ」の末に被害者が「生きジゴク」となるという遺書を残して自殺したことで、その後に加害者に対する遺恨を「遺書」という形で残して自殺するケースが多くを占めるきっかけとなった事例である。

いじめの第2期は、1989（平成元）年から1990年代中頃にかけてとされており、英国でのいじめ自殺が増加したため、「主に欧州での調査研究の確立期」⁽⁴⁾であったといわれる。この時期の我が国のいじめ被害の特徴は、これまでのような負の側面だけが強調されるのではなく、「顔がかわいい」や「頭がよい」、「先生の言うことをきちんと聞く」といったように、従来ならばプラスの評価を受ける子も、いじめの対象となったことである。その背景には、友人関係の同質性の高まりがあると言われる。すなわち、自分たちの仲間として許容できる範囲が狭くなり、マイナス、プラスの両側面において限度が設けられ、その許容幅を越えた子に対して、いじめの刃が向けられることになったと指摘できる。この期のいじめ自殺事件には、1994（平成6）年に愛知県西尾市で発生した事例がある。この事件では、100万円を超える金銭の強要や、川遊びと称した溺死寸前までの追い込みが被害生徒の遺書に詳細に記されており、その内容が「いじめ」という範疇を超えた「恐喝」や「殺人」の域に達していることが大きく報道された。再びいじめに対す

る厳しい視線が、連日学校や教師、加害生徒に向けられたのである。

いじめの第3期は1990年代中頃から2004（平成16）年頃までであり、欧州だけではなく、日本や韓国などのアジア圏、オーストラリアなどのいじめ研究者がスミスのもとで研究を進めた「国際的な共同研究の確立期」⁵⁾とされている。この時期になると、いじめは特定の国に派生するものではなく、先進諸国において共通に見られる学校の病理であるとの認識が共有された。

この期の日本のいじめの特徴は、周囲から「見えない」いじめへと深化したことである。図1-1を見てもわかるように、いじめの発件数は一見しただけでは減少しているように見える。しかしそれは、いじめが遊びに偽装されたり、隠蔽されたにすぎない。森田洋司は、いじめは被害者と加害者だけの問題ではなく、それを見てはやし立てる「観衆」層と、見て見ぬふりをする「傍観者」層の「四層構造」になっており、いじめの当事者間だけでは解決が難しいことを指摘した⁶⁾。とりわけ、自分に危害が及ぶことを恐れて無関心を装おう傍観者の存在が、いじめをより見えにくくしてしまった主要因と言えよう。第3期のいじめの事例として取り上げられることが多いのは、2006（平成18）年の北海道滝川市で起こった小学6年生のいじめ自殺事件である。このケースがこれまでと大きく異なる点は、被害者が小学生の女兒であり、いじめの内容も金銭のたかりや暴力ではなく、本人の身体的な特徴に対する行き過ぎた誹謗中傷であること、報告書では女兒の遺書を「手紙」と表現し、遺書と認めないなど、いじめ調査が不適切であり、被害者や遺族に対する尊厳を毀損する内容までが含まれていたことなどである。

最後に、いじめの画期としての第四期は2004（平成16）年以降であり、インターネット空間を利用した「ネットいじめ」を伴う、「いじめ研究の発展変革期」⁷⁾とされている。この期の特徴には、文部科学省がいじめの定義を大きく変更したことがある。1985（昭和60）年に規定された初発のいじめの定義は「自分より弱いものに対して一方的に、身体的・心理的に攻撃を継続的に加え、相手が深刻な苦痛を感じているもの」であったが、2007（平成19）年には「一定の人間関係のある者から、心理的・物理的攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの」となり、「いじめか否かの判断は、いじめられた子どもの立場に立って行うよう徹底させる」と変更された。「一定の人間関係」とは、いつも一緒にいるなど、周囲から見れば「友だち」のようにみえる関係が危ういことに警鐘を鳴らし、その関係の中にいじめが入り込んでいる実態を重視する。また、「いじめられた子どもの立場に立って」、被害を「認知」という定義への変更によって、図1-1にあるように大きく数値が増加したのである。また、2013（平成25）年の「いじめ防止対策推進法」制定によっていじめを調査・認知する組織が学校内に設置されたことも無関係ではない。この期のいじめ事件には、2011年10月に滋賀県大津市で発生したいじめ自殺がある。事件そのものは2011年10月に起きたにもかかわらず、翌年の7月に大々的に報道され、いつも一緒にいる「友だち」から、被害生徒が「自殺の練習」をさせられたという内容が、社会問題として取り上げられることになったことは記憶に新しい。

このように、いじめをめぐる言説は、時代を経るごとに変化してきている。それは、単に「学

校で起こったからいじめである」といった問題にとどまらず、学校、自治体、ひいては社会のあり方そのものに疑問を投げかけるものへの変化である。すなわち、第1期においては、それまで当事者間の問題であった「いじめ」が社会問題として取り上げられ、第2期には「犯罪」と同色ない行為に対する厳しい視線が学校や教師に向けられ、第3期には重篤ではない行為であっても被害者の側に立った支援が必要であること、第4期には法律によっていじめを防止するといふきっかけとなった、という流れを読めば、自明である。

2. 3年間の高等学校におけるネットいじめの変化

本論文では、京都府下にあるABC3つの高等学校における3年間の継続調査の結果、ネットいじめがどのように変化したのか、という様態に注目して分析を行う。その際、進学校（AB高）におけるネットいじめの経年変化を主たる分析関心とし、その際の比較対象群として、進路多様校（C高）も取り上げることとする。

【調査の概要】 サンプル 2,220名

(2015年：745名、2016年：727名、2017年：748名)

調査方法：自記式質問紙調査法。ホームルーム時に実施・回収

調査期間：2015年4月～2017年9月

表 1-1 調査サンプルの概要

	A 高等学校		B 高等学校		C 高等学校	
	男	女	男	女	男	女
2015年	122	117	137	134	119	114
2016年	124	118	124	137	111	113
2017年	111	135	129	148	130	95

2-1. 高校生のネット利用に関する項目の推移

まずは高校生のスマートフォンの所有状況を見てみたい。次の図および表 1-2 は ABC 高のスマホ所有率の推移を見たものである。

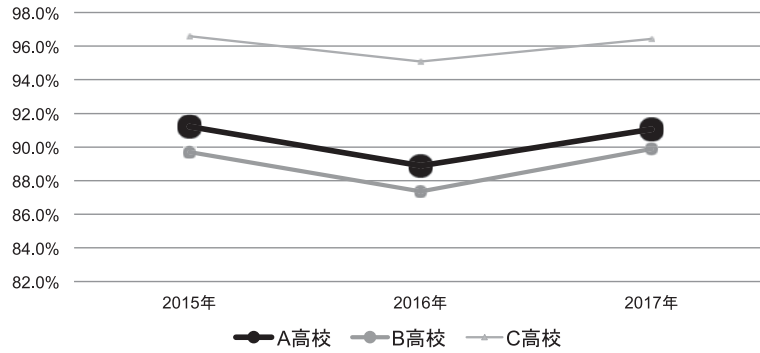


表 1-2 スマートフォン所有率の推移

	A 高等学校		B 高等学校		C 高等学校	
	n	%	n	%	n	%
2015 年	218	91.2	244	89.7	277	96.6
2016 年	216	88.9	228	87.4	213	95.1
2017 年	224	91.1	249	89.9	217	96.4

これを見ると、進学校である AB 高のスマホ所有率は C 高と比べて一貫して低いことが伺える。高校生全体のスマートフォンの平均所有率は 2015 年から 2017 年にかけて変化がなく、どちらも 91.9% であったため、AB 高が平均をやや下回る所有率であった一方で、C 高は高校生平均を上回っていることがわかる。

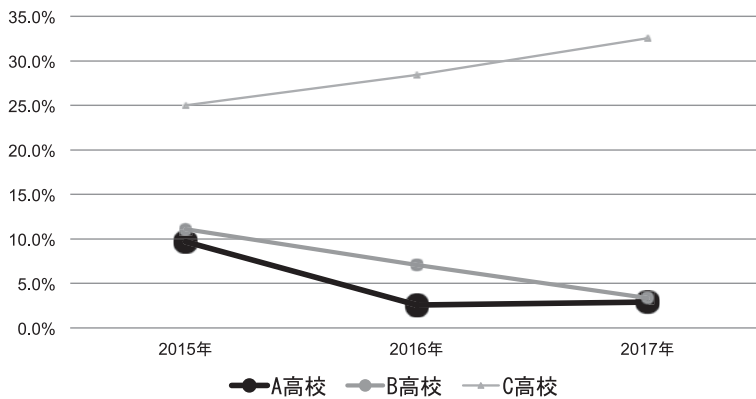


図 1-3 twitter 利用（2時間以上）の推移

表 1-3 twitter 利用（2時間以上）の推移

	A 高等学校		B 高等学校		C 高等学校	
	n	%	n	%	n	%
2015年	23	9.7	30	11.1	58	25.0
2016年	6	2.6	18	7.1	62	28.4
2017年	7	2.9	9	3.3	70	32.6

上の図および表 1-3 は 1 日に 2 時間以上 twitter を利用する生徒の推移を表したものである。これを見ると、AB 高の生徒の利用率は低く、1 割を切っていることが多い。twitter を 2 時間以上高校生の平均利用は 18.1%（2015 年）と 11.4%（2017 年）であり、AB 高の生徒の利用率は高校生平均から見ても引くことが分かる。一方で、C 高は 3 割以上の生徒が twitter を利用しており、年々利用者が増えていることが伺える。

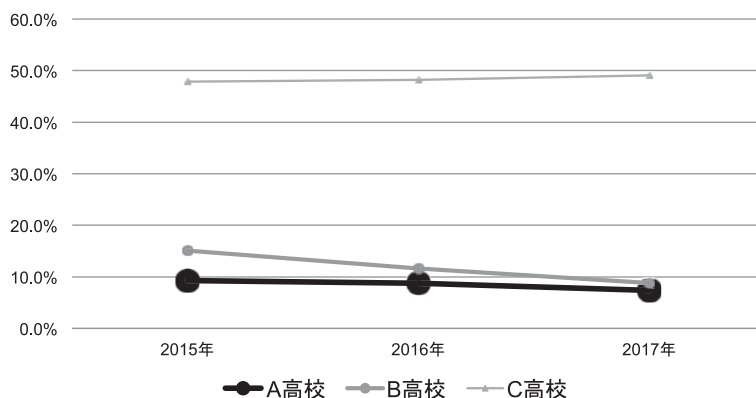


図 1-4 LINE 利用（2時間以上）の推移

表 1-4 LINE 利用（2時間以上）の推移

	A 高等学校		B 高等学校		C 高等学校	
	n	%	n	%	n	%
2015年	22	9.2	41	15.1	111	47.8
2016年	21	8.7	30	11.6	106	48.2
2017年	18	7.3	24	8.8	109	49.1

次に中学・高校生を中心に利用者の多い LINE の利用率を見てみたい。図および表 1-4 は 1 日 2 時間以上 LINE を利用する生徒の推移を表したものである。これを見ると twitter 同様に、AB 高の生徒の割合が低く、C 高の生徒の割合が高いことがわかる。高校生全体において 2 時間以上 LINE を利用する生徒の割合は 27.8%（2015 年）から 20.1%（2017 年）に減少しており、AB 高は平均を下回り、C 高は平均よりも多くの生徒が長時間 LINE を利用していることが伺える。

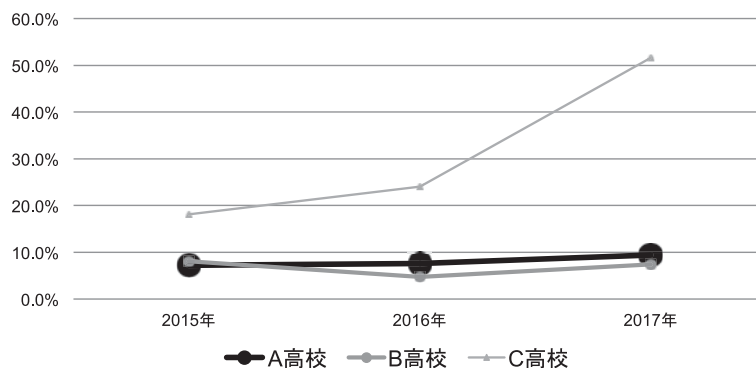


図 1-5 youtube 利用（2時間以上）の推移

表 1-5 youtube 利用（2時間以上）の推移

	A 高等学校		B 高等学校		C 高等学校	
	n	%	n	%	n	%
2015 年	17	7.2	22	8.1	42	18.1
2016 年	18	7.6	12	4.7	53	24.1
2017 年	23	9.4	20	7.4	115	51.6

最後に youtube の視聴時間の推移についてみてみたい。図および表 1-5 は 1 日 2 時間以上 LINE を利用する生徒の推移を表したものである。これを見ると、AB 高は 1 割を下回っており、平均 14.7%（2015 年）および 21.0%（2017 年）より低い数値で推移している。一方で、C 高は 2017 年の利用率が急増しており、ネット利用についてはどの項目であっても増加していることが伺える。

以上の結果から、進学校である AB 高については一貫して利用率が低下、もしくは低い水準で横ばいしていることが分かる。一方で、C 高は利用率が高くなっているものが多く、2017 年調査で急増している項目も見られた。

2-2. 高校生のいじめに関する項目の推移

それでは、3 校のネットいじめはどのように推移したのであろうか。次の図 1-6 は 3 高のネットいじめの推移をグラフ化したものである。

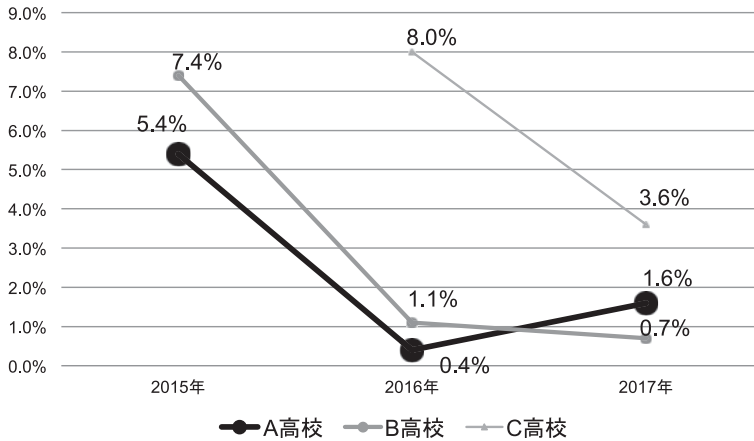


図 1-6 高校時におけるネットいじめの推移

これを見ると、3高とも一貫してネットいじめの割合が減少していることが分かる。しかし、AB高が高校平均からより低い数値で減少した（8.7%（2015年）、1.9%（2017年））のに対し、C高は平均と同程度に減少していることがわかる。これを見ると、年度が進むと同時に高校でのネットいじめが減少していることを指摘できる。

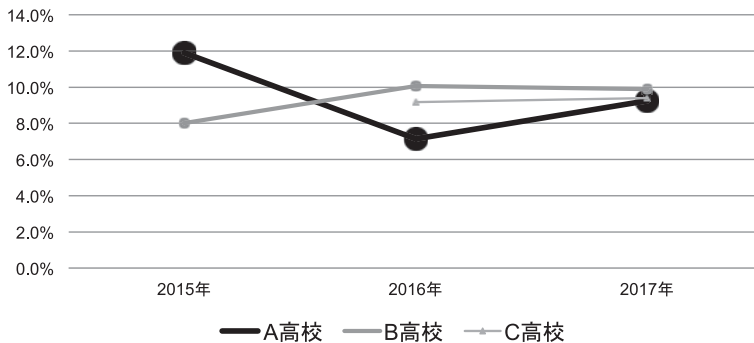


図 1-7 ひやかし、からかい、悪口を言われたことがあるの推移

表 1-6 ひやかし、からかい、悪口を言われたことがあるの推移

	A 高等学校		B 高等学校		C 高等学校	
	n	%	n	%	n	%
2015年	27	11.9	21	8.0		
2016年	17	7.1	26	10.1	20	9.2
2017年	21	9.3	26	9.9	20	9.4

このようにネットいじめの数値がAB高で下がる一方で、リアルいじめに関する項目は少し異なった傾向を見ることができる。図 1-7 および表 1-6 は「ひやかし、からかい、悪口を言われたこと」が「とてもある」割合の推移を表したものである。これを見ると、ABC 3高ともには

ほぼ同じ数値で横ばいになっていることが分かる。「ひやかし、からかい、悪口」はリアルいじめのなかでも軽度のいじめであり、「いじり」との境界線があいまいな項目であると考えられるが、それは進学校と多様校で大きな違いがみられないことが伺える。

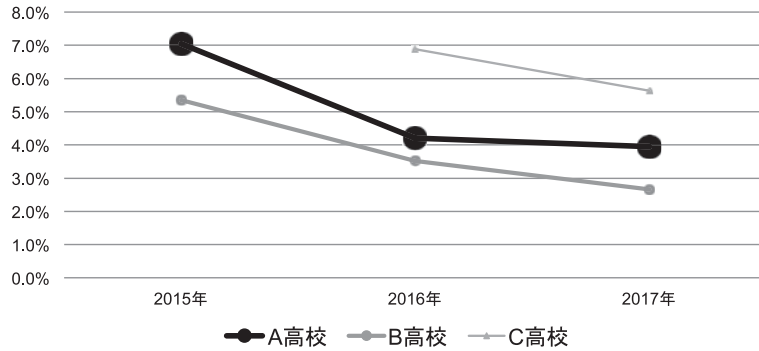


図 1-8 仲間外れや集団で無視をされたことがとてもあるの推移

表 1-7 仲間外れや集団で無視をされたことがとてもあるの推移

	A 高等学校		B 高等学校		C 高等学校	
	n	%	n	%	n	%
2015年	16	7.0	14	5.3		
2016年	10	4.2	9	3.5	15	6.9
2017年	9	3.9	7	2.7	12	5.6

しかし、リアルいじめがより厳しいものになると、ネットいじめと同様の傾向がみられる。図 1-8 および表 1-7 は「仲間外れや集団で無視をされたこと」が「とてもある」と答えた生徒の割合の推移を表したものである。これを見ると、AB 高の数値が低くなる一方で、C 高の数値が 2 校と比べて高くなっている。

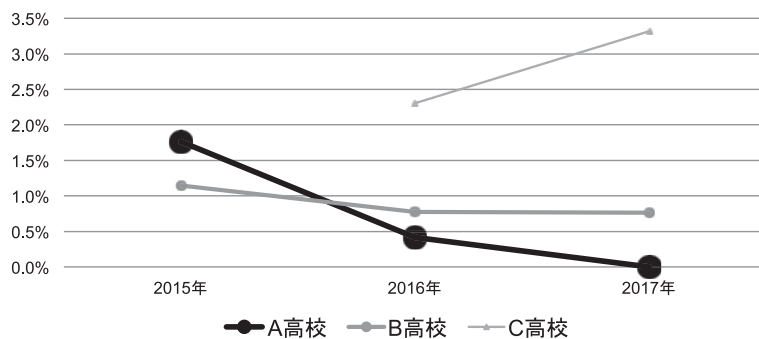


図 1-9 ひどく叩かれたり、金銭をたかられたりしたことがとてもあるの推移

表 1-8 ひどく叩かれたり、金銭をたかられたりしたことがとてもあるの推移

	A 高等学校		B 高等学校		C 高等学校	
	n	%	n	%	n	%
2015年	4	1.8	3	1.1		
2016年	1	.4	2	.8	5	2.3
2017年	0	0.0	2	.8	7	3.3

リアルいじめのもっとも厳しい暴力や金銭授受に関する項目を見てみると、やはり AB 高の数値は下がる一方で、C 高の数値は若干ながら上昇している。

これを見ると、ネットいじめやリアルいじめの重篤なケースについては3年間で数値を下げていく一方で、軽微なリアルいじめでは、進学校と多様校に大きな格差は見られないことが分かった。すなわち、近年のいじめ報道を中心とするいじめ防止対策がネットいじめや重篤なリアルいじめには効果をもたらした一方で、「いじり」と呼ばれる軽微ないじめについては、進学校や多様校の区別なく、高校生が一定の割合で被害に遭っていることを示しているといえるだろう。

2-3. 学力とネットいじめの関係

3高の推移を概観すると、進学校である AB 高はほぼ同様の推移を見せており、AB 高の違いを見るのが難しい。ここでは、ABC 3高それぞれにネットいじめを受けたことが「ある」群と「ない」群を区分し、2015年から2017年にかけて、その他の質問項目の平均と有意差がどのように変化したのかを見てみたい。表 1-9~11 は ABC 3校の分散分析の結果を表したものである。

これらを見ると、ABC 3校それぞれの特徴が見えてくる。まず A 高はネットいじめと LINE 中傷の相関関係が強くなっており、ネットいじめを受けた生徒は LINE で中傷されている生徒であると指摘できる。一方でネットいじめと twitter での中傷の相関関係は弱くなっており、A 高校においてネットいじめと twitter の関係は弱くなっているといえる。

A 高校と同様に進学校の B 高校ではネットいじめと LINE 中傷の相関関係がほぼなくなり、安泰に twitter での中傷との相関関係が一貫して強いことが伺える。また、A 高校には見られなかったツイキャスや mixchannel といった高校生にはあまり一般的ではないアプリの利用時間とネットいじめの相関関係が強くなっていることが伺える。これは B 高校が中高一貫性の学校であり、高校から人間関係を形成する A 高校と異なる人間関係が構築されていることが要因のひとつであると推測できる。

2校と高校階層が異なる C 高校では、B 高校と同様にネットいじめと LINE 中傷の相関関係が弱くなる一方で twitter での中傷との相関関係が強くなったことが伺える。リアルのいじめとネットのいじめの相関関係が3校のなかではもっとも強く、リアルとネットが地続きになってい

表 1-9 A 高校における分散分析の結果

	2015 年度		2017 年度		2015 年度	2017 年度		
	なし	あり	なし	あり	F	F		
スマホ所有	0.912	0.923	0.909	1.000	0.02	0.40		
ガラケー所有	0.142	0.231	0.070	0.000	0.78	0.30		
ケータイ所有開始時期	4.046	3.923	4.120	3.667	0.17	0.67		
twitter 利用時間	3.326	2.846	3.672	3.500	1.27	0.06		
LINE 利用時間	2.382	1.846	2.241	2.000	4.19	0.32	*	↘
ニコニコ動画利用時間	4.386	4.846	4.404	4.750	2.60	0.49		
youtube 利用時間	2.772	2.615	2.713	3.000	0.33	0.28		
ツイキャス利用時間	4.855	4.846	4.851	4.750	0.00	0.18		
mixchannel 利用時間	4.846	4.692	4.889	5.000	1.03	0.34		
2ちゃんねる利用時間	4.595	5.000	4.651	4.750	2.56	0.06		
メール等やりとり回数	1.836	2.385	2.149	1.500	3.55	1.46	+	↘
ネット利用時間	3.351	3.769	3.167	3.250	1.68	0.02		
家庭内ルールの有無	1.585	1.538	1.658	1.750	0.11	0.15		
家庭内ルール遵守	1.808	2.333	1.724	2.000	2.74	0.12		
LINE 中傷	0.000	0.538	0.000	0.750	261.46	720.10	***	↗
twitter 中傷	0.000	0.385	0.000	0.250	140.07	80.01	***	↘
いつも遊ぶグループあり	2.028	1.923	1.978	2.000	0.15	0.00		
悩みがあれば友達に相談	2.369	2.000	2.227	1.750	1.88	1.00		
面と向かって話したい	1.879	1.846	1.816	2.250	0.02	1.30		
友達が多いと思う	2.653	2.462	2.534	2.500	0.65	0.01		
SNS をよく使う	1.584	1.462	1.627	1.500	0.27	0.09		
ケータイを手放すのは不安	2.556	2.538	2.731	2.250	0.00	1.04		
ひやかし、からかい、悪口	2.785	1.923	2.978	2.000	9.71	3.83	**	+ ↘
仲間外れ、無視をされた	3.350	2.846	3.469	2.500	3.76	5.25	+	* ↗
叩かれる、金銭を取られる	3.808	3.692	3.924	3.500	0.49	5.56	*	* ↗
中学校は落ち着いていた	2.299	2.538	2.159	2.250	0.80	0.03		
家族との会話は多い	1.902	1.692	1.868	2.000	0.74	0.10		
友達との会話は SNS が多い	2.432	2.308	2.457	2.500	0.24	0.01		
学校の出来事を保護者に話す	2.103	1.923	2.080	1.750	0.47	0.55		
友人関係を保護者に話す	2.404	2.538	2.372	2.250	0.22	0.07		
ケータイ等のやりとりを保護者に話す	3.103	3.000	3.090	2.500	0.17	1.90		
学校で配布されたプリントを保護者に渡す	1.972	1.846	1.700	1.500	0.25	0.26		
朝起きたら家族にあいさつをする	1.854	1.923	1.872	1.500	0.07	0.56		
平日、朝ご飯を保護者と食べる	2.495	2.154	2.759	1.500	1.03	4.60	*	* ↗
平日、夜ご飯を保護者と食べる	1.906	1.769	2.040	2.000	0.23	0.01		
一人よりも友達と一緒に楽しい	2.005	1.846	1.829	2.250	0.45	1.00		
外へ出かけることが多い	2.500	2.154	2.436	2.250	1.92	0.17		
近所の人にあったら挨拶する	1.971	1.615	1.831	2.000	2.24	0.19		
自分は周囲から頼まれやすい	2.581	2.154	2.489	2.250	4.09	0.38	*	↘
自分のネタで話が盛り上がる	2.799	2.462	2.770	2.000	2.67	4.70	*	* ↗
自分がいることで周囲が盛り上がる	3.010	2.692	2.894	2.500	2.65	1.35		
レス（返信）は早いほうだ	2.796	2.231	2.715	2.500	5.16	0.23	*	↘
自分の書き込みにコメントがほしい	2.872	2.692	3.050	3.000	0.46	0.01		
twitter に複数のアカウントがある	3.043	2.385	3.320	2.750	3.09	0.92	+	↘
LINE 外しをしたことがある	3.585	3.385	3.732	4.000	0.73	0.57		
LINE の既読無視をしたことがある	2.438	1.923	2.656	2.500	2.42	0.07		
生活で撮った写真をネットにあげる	2.714	2.538	2.986	2.500	0.25	0.63		
ネットで知り合った人と実際にあった	3.627	3.769	3.765	3.500	0.34	0.56		
課金ゲームをしたことがある	3.441	3.385	3.391	2.750	0.04	1.35		
LINE のグループ数は多い方だ	2.696	2.154	2.673	2.500	3.77	0.13	+	↘

表 1-10 B 高校における分散分析の結果

	2015 年度		2017 年度		2015 年度	2017 年度			
	なし	あり	なし	あり	F	F			
スマホ所有	0.893	0.950	0.902	0.500	0.65	3.55	+	/	
ガラケー所有	0.111	0.250	0.080	0.000	3.37	0.17	+	\	
ケータイ所有開始時期	3.901	3.850	3.854	2.000	0.05	4.39	*	/	
twitter 利用時間	3.156	2.100	3.586	2.000	9.73	2.58	**	\	
LINE 利用時間	2.250	1.900	2.325	2.500	2.44	0.07			
ニコニコ動画利用時間	4.390	3.600	4.448	3.500	10.48	1.88	**	\	
youtube 利用時間	2.677	2.400	2.662	2.000	1.81	0.91			
ツイキャス利用時間	4.815	4.500	4.772	3.500	5.09	7.08	*	/	
mixchannel 利用時間	4.835	4.800	4.812	3.500	0.06	10.94	**	/	
2ちゃんねる利用時間	4.610	4.550	4.775	3.500	0.10	7.37	**	/	
メール等やりとり回数	2.287	2.900	2.114	1.500	5.37	0.74	*	\	
ネット利用時間	3.163	3.750	3.197	2.500	4.96	0.79	*	\	
家庭内ルールの有無	1.653	1.500	1.560	1.500	1.89	0.03			
家庭内ルール遵守	1.466	2.222	1.694	3.000	15.06	6.68	***	*	\
LINE 中傷	0.004	0.350	0.000	0.000	108.01		***	\	
twitter 中傷	0.004	0.550	0.000	0.500	250.86	273.01	***	=>	
いつも遊ぶグループあり	1.861	1.850	1.787	2.000	0.00	0.14			
悩みがあれば友達に相談	2.136	1.850	2.045	2.000	1.59	0.01			
面と向かって話したい	1.728	1.700	1.683	1.000	0.03	0.98			
友達が多いと思う	2.272	2.450	2.318	3.000	0.85	0.75			
SNS をよく使う	1.450	1.450	1.519	1.000	0.00	0.40			
ケータイを手放すのは不安	2.545	2.300	2.711	3.000	1.18	0.10			
ひやかし、からかい、悪口	2.979	2.100	3.034	1.000	16.83	4.13	***	*	\
仲間外れ、無視をされた	3.475	2.700	3.515	1.000	14.99	11.31	***	**	\
叩かれる、金銭を取られる	3.901	3.700	3.865	3.500	3.89	1.31	+	\	
中学校は落ち着いていた	1.992	2.000	1.913	3.000	0.00	2.79	+	/	
家族との会話は多い	1.798	2.000	1.779	2.000	1.15	0.16			
友達との会話は SNS が多い	2.353	2.263	2.346	2.000	0.18	0.15			
学校の出来事を保護者に話す	2.191	2.263	1.905	2.000	0.10	0.01			
友人関係を保護者に話す	2.469	2.263	2.239	2.500	0.78	0.15			
ケータイ等のやりとりを保護者に話す	3.154	3.053	2.973	3.000	0.22	0.00			
学校で配布されたプリントを保護者に渡す	1.889	2.105	1.586	2.000	1.06	0.37			
朝起きたら家族にあいさつをする	1.814	1.889	1.739	2.000	0.10	0.09			
平日、朝ご飯を保護者と食べる	2.620	2.474	2.523	2.000	0.28	0.41			
平日、夜ご飯を保護者と食べる	1.880	2.053	1.835	3.000	0.56	1.61			
一人よりも友達と一緒に楽しい	1.826	1.842	1.646	1.000	0.01	0.81			
外へ出かけることが多い	2.329	2.158	2.332	1.000	0.76	2.53			
近所の人にあったら挨拶する	1.842	1.947	1.788	1.000	0.30	1.02			
自分は周囲から頼まれやすい	2.403	2.158	2.378	1.000	2.05	3.28	+	/	
自分のネタで話が盛り上がる	2.603	2.421	2.695	3.000	1.11	0.19			
自分がいることで周囲が盛り上がる	2.685	2.737	2.793	3.000	0.09	0.10			
レス（返信）は早いほうだ	2.642	2.211	2.621	2.000	3.72	0.57	+	\	
自分の書き込みにコメントがほしい	2.917	2.632	3.066	3.000	1.76	0.01			
twitter に複数のアカウントがある	3.084	1.842	3.216	1.500	16.74	3.90	***	*	\
LINE 外しをしたことがある	3.741	3.368	3.767	4.000	4.20	0.13	*	\	
LINE の既読無視をしたことがある	2.416	1.737	2.774	2.000	5.99	0.45	*	\	
生活で撮った写真をネットにあげる	2.551	1.947	2.881	2.000	4.12	0.49	*	\	
ネットで知り合った人と実際にあった	3.759	3.000	3.795	3.000	16.81	1.42	***	\	
課金ゲームをしたことがある	3.438	3.000	3.473	1.000	2.90	6.01	+	*	/
LINE のグループ数は多い方だ	2.424	1.947	2.677	1.000	4.27	3.12	*	+	\

表 1-11 C 高校における分散分析の結果

	2015 年度		2017 年度		2015 年度	2017 年度	
	なし	あり	なし	あり	F	F	
スマホ所有	0.947	1.000	0.963	1.000	1.01	0.30	
ガラケー所有	0.102	0.278	0.041	0.000	5.06	0.34	↘
ケータイ所有開始時期	3.512	3.222	3.665	2.625	1.22	9.41	** ↗
twitter 利用時間	2.453	2.412	2.483	1.500	0.01	3.67	+ ↗
LINE 利用時間	1.719	1.588	1.794	1.125	0.34	3.56	+ ↗
ニコニコ動画利用時間	4.315	4.235	4.412	4.125	0.07	0.49	
youtube 利用時間	2.426	2.556	1.800	1.875	0.21	0.04	
ツイキャス利用時間	4.591	4.176	4.611	3.125	3.86	21.94	*** ↗
mixchannel 利用時間	4.372	4.118	4.619	3.125	0.98	26.95	*** ↗
2ちゃんねる利用時間	4.635	4.471	4.744	4.125	0.51	4.29	* ↗
メール等やりとり回数	2.776	3.333	2.521	4.375	2.87	16.25	*** ↗
ネット利用時間	3.745	3.778	3.888	3.625	0.01	0.32	
家庭内ルールの有無	1.787	1.667	1.766	1.667	1.38	0.32	
家庭内ルール遵守	1.520	2.143	1.400	2.667	4.18	13.27	** ↗
LINE 中傷	0.000	0.333	0.005	0.250	102.08	41.52	*** ↘
twitter 中傷	0.000	0.278	0.000	0.500	78.52	215.07	*** ↗
いつも遊ぶグループあり	1.734	2.111	1.608	2.000	2.75	1.66	↘
悩みがあれば友達に相談	2.158	2.059	2.053	1.750	0.16	0.62	
面と向かって話したい	1.851	1.588	1.806	2.500	1.62	5.77	* ↗
友達が多いと思う	2.400	2.500	2.406	2.625	0.22	0.48	
SNS をよく使う	1.507	1.412	1.415	1.500	0.21	0.12	
ケータイを手放すのは不安	2.446	2.412	2.281	1.429	0.02	5.99	* ↗
ひやかし、からかい、悪口	2.881	2.000	3.068	2.000	14.03	9.13	*** ↘
仲間外れ、無視をされた	3.398	2.235	3.498	2.375	28.39	13.55	*** ↘
叩かれる、金銭を取られる	3.725	3.294	3.730	3.000	6.70	7.39	** ↗
中学校は落ち着いていた	2.259	2.882	2.250	1.714	5.92	1.77	↘
家族との会話は多い	1.901	2.118	1.931	1.625	0.93	1.08	
友達との会話は SNS が多い	1.990	2.000	1.966	1.500	0.00	2.22	
学校の出来事を保護者に話す	2.228	2.235	2.296	1.625	0.00	3.32	+ ↗
友人関係を保護者に話す	2.473	2.529	2.453	1.750	0.05	3.40	+ ↗
ケータイ等のやりとりを保護者に話す	3.114	3.235	3.124	2.875	0.28	0.51	
学校で配布されたプリントを保護者に渡す	2.271	2.294	2.144	2.875	0.01	3.93	* ↗
朝起きたら家族にあいさつをする	2.200	1.882	2.267	2.000	1.41	0.44	
平日、朝ご飯を保護者と食べる	2.910	3.235	2.772	2.875	1.28	0.06	
平日、夜ご飯を保護者と食べる	2.034	2.000	1.951	2.125	0.02	0.20	
一人よりも友達と一緒に楽しい	1.812	2.118	1.682	2.000	1.82	1.05	
外へ出かけることが多い	2.191	2.176	2.276	2.000	0.00	0.62	
近所の人にあったら挨拶する	1.990	2.059	2.010	1.750	0.10	0.55	
自分は周囲から頼まれやすい	2.410	2.353	2.477	1.875	0.08	3.18	+ ↗
自分のネタで話が盛り上がる	2.714	2.647	2.685	1.625	0.13	12.68	*** ↗
自分がいることで周囲が盛り上がる	2.837	2.824	2.808	2.000	0.01	7.28	** ↗
レス（返信）は早いほうだ	2.368	2.235	2.328	1.875	0.33	1.83	
自分の書き込みにコメントがほしい	2.939	2.647	3.076	2.375	1.80	4.65	* ↗
twitter に複数のアカウントがある	2.960	2.706	2.858	1.625	0.71	7.75	** ↗
LINE 外しをしたことがある	3.385	3.000	3.409	1.750	2.52	24.07	*** ↗
LINE の既読無視をしたことがある	2.096	2.063	2.405	1.750	0.01	2.38	
生活で撮った写真をネットにあげる	2.189	2.176	2.497	1.250	0.00	7.19	** ↗
ネットで知り合った人と実際にあった	3.291	3.176	3.372	2.000	0.15	12.76	*** ↗
課金ゲームをしたことがある	3.056	3.250	2.959	2.750	0.40	0.21	
LINE のグループ数は多い方だ	2.422	2.588	2.444	2.375	0.49	0.04	

る実態がみえてくる。また、C 高校では AB 高校では見られなかった「自分は周囲から頼まれやすい」、「自分のネタで話が盛り上がる」、「自分がいることで周囲が盛り上がる」といった「いじり」に関する項目とネットいじめの相関関係が強くなっている。高校生のいじめのきっかけとなる「いじり」とネットいじめの関係について分析を進めたい。

2.4. 「いじられ」指数とネットいじめの関係

上記の分散分析の項目であるいじりに関する3つの項目、すなわち、「自分は周囲から頼まれやすい」、「自分のネタで話が盛り上がる」、「自分がいることで周囲が盛り上がる」の3変数から「いじられ」指数を作成した。それぞれの項目は4件法で回答してもらっているため、最大値12、最小値4となるいじられ指数の高い生徒を取り出し、ネットいじめの経験「あり」の生徒とのクロス集計の結果が図1-10である。

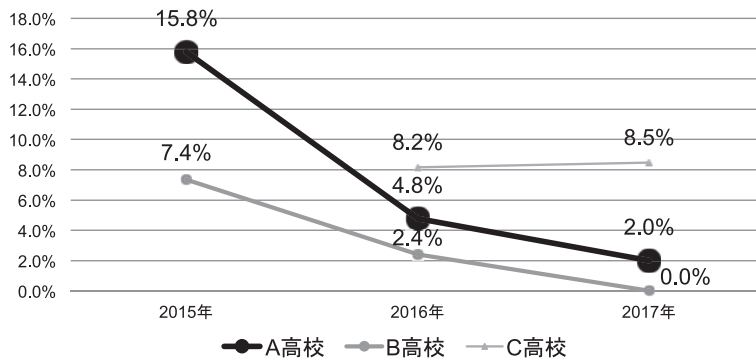


図1-10 「いじられ指数」高位×ネットいじめ「あり」の推移

これを見ると、AB 高ではいじられ指数の高い生徒のネットいじめの被害の割合が年々低くなっており、「いじられる生徒＝ネットいじめの被害者」という一般的な理解は当たらなくなっていることが分かる。C 高では高い水準を維持しており、多様校では「いじられる生徒＝ネットいじめの被害者」が十分な説得力を持ち得るが、進学校では近年それがあたらなくなっているとも指摘できるだろう。

2.5. 「学力移動」とネットいじめの関係

これまで見てきたように、高校生のネットいじめの有無と学力との間には、何らかの関係性があるのではないかとこの特質を見出すことができたが、それをより明確にするため、ここでは、「学力移動」の分析フレームに注目してみたい。「学力移動」とは原清治・山内乾史らの研究グループ（原・山内 2009 他）が学力問題を研究するなかでみられた特徴であり、個人の相対的学力が所属集団の内部で上昇移動したのか下降移動したのか（あるいは移動しないのか）によって、その個人の内面的な意識や行動にさまざまな変化が起こることに注目したものである。

ここでは ABC 3 校それぞれの学力移動によって、ネットいじめの被害者がどこにもっとも多く発生しているのかをイメージ図を用いてみたい。図 1-11 は中学生から高校生にかけて相対的な学力分位がどのように移動するか（しないか）によって、ネットいじめの被害を多く受ける学生がどこに分布するのかを表したものである。

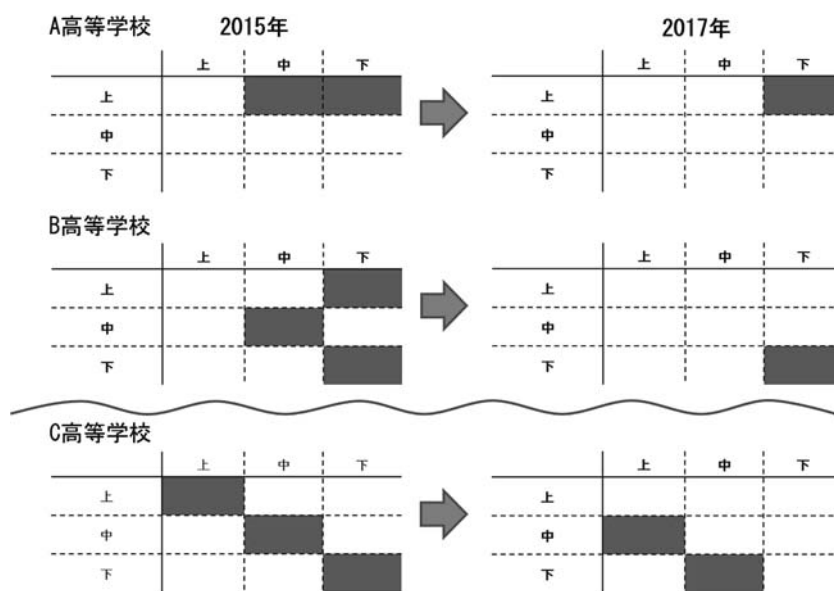


図 1-11 各高校における学力移動とネットいじめ「あり」のイメージ図

これを見ると、A 高は一貫して相対的な学力が低下した生徒にネットいじめの発生率が高く、B 高は学力に変化のない生徒もしくは学力が低下した生徒に多かったが、2017 年は A 高と同様に学力が低下したものに増えていることがわかる。進学校である AB 高においては、標準的な学力が全体的に高く、生徒全体が高い学力を維持しているため、そこからこぼれ落ちた生徒にネットいじめの刃が向くことが指摘できる。

進学校が相対的な学力が低下した生徒に多いのに対し、多様校である C 高は全く異なる傾向を示す。相対的な学力に変化のない生徒に多かったネットいじめ発生率が学力の向上した生徒に偏るのが C 高の特徴である。すなわち、相対的な学力が向上した生徒にネットいじめの刃が向く。どの高校であっても「ネットいじめ」は発生しているが、その性質の違いにネットいじめの被害者の特性が大きく異なることが指摘できる。すなわち、進学校では学力が下がった生徒に、多様校では学力が上がった生徒にネットいじめの被害の割合が高くなっており、それぞれの高校でのネットいじめに対する対応は異なることが指摘できる。

3. まとめにかえて－高校階層を意識したネットいじめ対策の必要性－

最後に本論文で明らかになった知見を整理し、まとめにかえたい。

3年間の継続調査から明らかになったことは以下のとおりである。

1. 高等学校でのネットいじめの発生率は3校ともに減少しているが、進学校の AB 校は多様校の C 校より多く減少していること
2. ネットいじめに関して、軽度なものは3校に数値上の違いは見られないが、重篤度合いが高くなると AB 校と C 校の数値に差異が出てくる
3. 分散分析の結果から、①A 校は LINE 中傷との相関が高く、いじりとネットいじめの関係は弱くなる。重篤度合いが高いリアルいじめとネットいじめの相関は強くなる、いじられ指数との関係は弱まること、②B 校は一般的ではないサイトの利用度合とネットいじめの相関が強くなっていること、リアルいじめとの関係は弱くなること、複数 ID やネットとリアルをつなげる行為とネットいじめの相関は弱くなること、③C 校は一般的ではないサイトの利用度合とネットいじめの相関が強くなっていること、twitter 中傷とネットいじめとの相関が強くなっていること、リアルいじめとネットいじめの相関はもっとも強く、いじられ指数とネットいじめの相関も強いこと
4. いじられ指数とネットいじめの関係が進学校である AB 校では弱くなっているが、依然として多様校である C 校では一定の関係が認められること
5. 当該学校の学力の多数派に属さない生徒（進学校の学力下位、多様校の学力上位）にネットいじめの刃が向いていること

以上の結果から見えてくることは、同じ「高等学校」であっても高校階層や学力移動に配慮した実態を把握していなければ、ネットいじめやリアルいじめを抑止する活動に効果が認められないことが予想できることである。例えば、進学校におけるいじめ抑止の活動は LINE での誹謗中傷に意識を持ち、「いじり」を「いじめ」と意識させるような内容でなければならない。リアルいじめの数値は高くないため、リアルいじめとネットいじめの関連性を問うのは AB 校ではあまり意味をもたないだろう。

反対に、C 校のような多様校においてはリアルいじめとネットいじめが地続きであることを前提として両方のいじめに目配せをする活動が求められる。また、リアルのいじめが進学校より厳しいケースが見られる場合は、一番しんどい被害を受けている生徒を早急に見つけ、臨時的な判断も考慮した対応策が求められる。

いじめそのものは 1980 年ごろから絶えず子どもたちの世界に根を下ろしており、これを根絶することは難しい。ネットいじめそのものは減少傾向にあるとはいえ、第三者から見えにくい、可視性の低いいじめであるのは自明である。ゆえに、いじめの実態を精緻にとらえ、子どもにいじめに対するメッセージを絶えず発信しなければ、いじめの連鎖が絶たれることはない。

いじめに対してどのような立場をとるのか、我々大人の良識が問われているともいえるのである。

注

- (1) 戸田有一「いじめ問題と子ども主体の対策」『岩波講座教育改革への展望3』岩波書店、2016年、192-131頁。
- (2) 同上、130頁。
- (3) 佐久間正弘「“いじめ事件”における学校責任の社会的構築」『社会学年報 No.43』2014年、120頁。
- (4) 戸田、前掲書、130頁。
- (5) 同上、130頁。
- (6) 森田洋司・清永賢二『いじめ-教室の病い』金子書房、1994年、159頁。
- (7) 戸田、前掲書、130頁。

参考文献

- 伊藤茂樹『リーディングス日本の教育と社会⑧いじめ・不登校』日本図書センター 2007年
下田博次『学校裏サイト』東洋経済新報社 2008年
内藤朝雄『いじめの構造』講談社 2009年
原清治・山内乾史『ネットいじめはなぜ「痛い」のか』ミネルヴァ書房 2011年
藤川大祐『ケータイ世界の子どもたち』講談社 2008年
藤川大祐『いじめで子どもが壊れる前に』角川書店 2012年
本田由紀『若者の気分 学校の「空気」』岩波書店 2011年
森田洋司・清永賢二『新訂版いじめ 教室の病い』金子書房 1994年
森田洋司『いじめとは何か』中央公論新社 2010年
『改めて「いじめ対応」を考える』児童心理 2013年8月号臨時増刊 No.972
『岩波講座教育改革への展望3』岩波書店、2016年

付記

本論文は文部科学省科学研究費補助金基盤研究（B）15H03491「ネットいじめの構造とその対策に関する実証的研究」（研究代表者：原清治、2015～2018年）、科学研究費補助金挑戦的研究（萌芽）17K18677「ネットいじめの国際比較－世界共通質問紙作成の挑戦－」（研究代表者 原清治、2017～2019年）、および佛教大学総合研究所共同研究「いじめの実態と児童・生徒への支援のあり方に関する総合的研究」（2014～2016年）の研究の成果の一部であり、原清治「第6章第1節いじめ問題」（西岡加名恵編著『教職教養講座第7巻特別活動と生徒指導』協同出版、2017年、pp.154-171）および日本教育社会学会第69回大会（2017.10.21、於：一橋大学）における発表をもとに大幅に加筆修正したものである。

なお、本稿は抄録、1を原が、2,3を浅田が担当したが、その責任は両者が等しく負うものである。

（あさだ ひとみ 華頂短期大学講師）

（はら きよはる 共同研究研究員／佛教大学教育学部教授）